



元日 開運修正会

青葉の笛だより

第27号

平成31年 正月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

ご挨拶

平成の御代もあと少しとなりました。この三十年の社会環境と生活環境の変化は著しいものがありますが、神仏に対する思いはあまり変わらないと思います。

先日、神仏霊場会主催による十周年記念フォーラム「神と仏は同座する・神仏巡礼」の中で、同霊場会の特別顧問であり宗教学者である、山折哲雄先生の「神と仏と日本の心」と題された講演がありました。先生は「千年以上の年月、日本の神様と外来の仏様たちが協調関係を結べたのは、日本の神様には永遠に死なない神様と、死んでお墓に祀られる神様がおり、死ぬ神様が死を通して人と神様とを結び、その神様を僧侶と神職と一緒に祀ったことにある」等とお話しになりました。そして、キリスト教やイスラム教の聖地巡礼は、行って帰るといふ直線的だが、インドでは種々の神様をめぐる旅があり、日本では神様自体が他の神様の下を旅されるし、四国や西国、大峰山や熊野古道を歩く旅でも円を描く、巡

るという礼拝行をしている。そこに素晴らしいさがあり、穏やかさがあるとおっしゃっていました。

そして、「明治以降、REELIGIONを宗教と訳し、その言葉を使い出したが、明治以前の日本では宗教に当たる言葉としては、『心』という言葉が使われてきた。『心』は様々な深い価値を持つ言葉であった。宗教という言葉を使わず、『心』を使う方が日本人には馴染むのではないか」とも述べられました。

今年は亥年です。干支の十二番目、干支の最後の歳が平成最後の年になり、新しい元号の出発の年ともなります。猪といえは直ぐに出てくる言葉が「猪突猛進」で、正に脇目もふらずに一直線に進むように思われますが、もの凄く警戒心も強く、すぐによく止まります。私たちもここは一つ立ち止まり、今までの道もこれからの道も、もう一度自分を見直して、縁が〇になり輪となって和になるように、神縁・仏縁頂き、神様・仏様の道を歩いてみませんか。

平成三十一年も新しい御代も、皆様のご多幸とご健勝を日々祈り、精進してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

大本山須磨寺 貫主

合掌

小池 弘三

十三佛に見守られて(9)

— 弥勒菩薩

摩耶山天上寺貫主 伊藤 淨厳

今回は未来の仏(当来仏)である弥勒菩薩(弥勒仏)の誓願と信仰についてお話ししてみたいと思います。

まず、正像末の三時について少し説明しておきます。三時とは正法と像法と末法であり、釈尊の入滅後において、その教えが伝えられている時期を三期に分けたもの。すなわち、

(1)、正法時とは、釈尊の教(教え)と行(修行)と(悟り)との三つが正しく伝えられ実践されている時期。

(2)、像法時とは、証を得るものはないが、教と行の二つがなお存している時期。

(3)、末法時とは、教のみあって、行と証とのない時期で、修行する人も、悟りを開くものもなくなった時期で、仏教衰滅の時代です。

この三時期を過ぎると、教えさえなくなり暗黒の法滅の時代が到来するのです。

ちなみに、この三時の年数については諸説がありますが、一般的には、正法五百年、像法一千年、末法は一万年と説かれています。この一万年は、満数であって、永久にその状態(期間)が続くことを意味しています。

ところで、この末法時の救済には、二つの方法があったのです。一つは弥勒菩薩(仏)の信仰であり、もう一つは阿弥

陀如来の信仰であります。大略を説明してみましよう。

(一)、弥勒菩薩の信仰

弥勒菩薩の梵名はマイトレーヤで、「慈悲から生まれたもの」という意味で、慈氏菩薩といわれ、また弥勒慈尊ともいわれています。このような尊名からしても、弥勒菩薩は慈悲を本誓とする菩薩なのであります。

『弥勒上生經』によれば、弥勒はインドのバラモンの家に生まれました。ある時、弥勒は祇園精舎でお釈迦さまの説法を聞いて、その教えをただちに正しく理解しました。釈迦は弥勒の並々ならぬ器量を見極め、将来必ず悟りを開いて仏(如来)になるであろうと確信し、法の継承者として付属(教えを授けて、後継者に付託すること)されたのです。それゆえに、弥勒菩薩は補処の菩薩とか、一生補処の菩薩と呼ばれているのです。補処とは、仏の処を補う意で、前の仏が入滅した後に、仏となってその処を補うこと。すなわち、釈迦に次いで成仏する菩薩のことであります。

この弥勒菩薩は釈迦の説法を聞いてより十数年後に、兜率天という天上界に昇ったといわれています。兜率天というのは、世界の中央に聳える須弥山のはるか上にある、神々の住む世界で、釈迦もこの世に生まれる前にはこの天に昇つ

て、この世に下生する時期を待ったといわれています。弥勒も釈迦と同じように兜率天に昇り、現在は菩薩として修行に励み、神々(諸天)に教えを説きながら下生の時期を待っているといわれています。

また、『弥勒下生經』によれば、弥勒菩薩は仏滅後五十六億七千万年を経て、この世に生まれ、竜華樹という木の下で悟りを開いて仏(如来)となり、釈迦の救いに洩れた衆生を救済してくださるのです。

ここに、弥勒菩薩に対する信仰形態が二つに分かれることになりました。

一つは、兜率天(弥勒の浄土)にあって、大慈悲の誓願を立てて、修行と教化に精進しながら、将来閻浮提(この世)に下生する時期を待ち望んでいる菩薩としての弥勒に対する信仰。すなわち、兜率天に往生して弥勒菩薩と共に修行しつつ、時期が到来すれば弥勒菩薩とともにこの世に下生して、衆生を救済しようとする誓願をあわせもつ信仰で、端的には兜率天におられ、仏になる以前の弥勒菩薩のもとに上生することを願う信仰です。この場合には、兜率天におられる弥勒はいまだ成仏していませんので、菩薩形で表現されます。

二つ目は、この娑婆世界に下生して、竜華樹のもとで悟りを開かれた弥勒如来(仏)の下に参じて、如来の説法を聞き、修行して自分も悟りを開きたいと願う信仰であります。この場合の弥勒は既に成仏されているので、如来形であります。端的には、悟りを開かれた弥勒如来に對

する信仰であります。

以上、二つの弥勒の信仰を奉持して努力するものは、ともに自ら戒定慧の三学を實踐して、仏教の究極の境地に達することを目指しているもので、他力ではなく自力といえます。

(二)、阿弥陀如来の信仰

日本では、平安時代の後期から末法の時代がはじまるとされています。この末法の時代に、浄土往生の思想が盛んになり、弥勒菩薩の兜率天往生と、阿弥陀如来の極楽往生の信仰があまねく世の中に広まったのです。

だが前述のごとく、弥勒信仰は、自力的な往生信仰であり、阿弥陀信仰は他力信仰であります。この他力信仰である阿弥陀信仰では、この五濁惡世にして、人はみな煩惱熾盛・罪惡深重なるがゆえに、戒定慧の三学を實踐し、自力で悟りを得ることなど到底無理・不可能であるというのです。

従って、自力を伴う弥勒信仰より、阿弥陀如来の他力に全面的によりすがる信仰の方が、入信しやすくなった筈です。

そのため、次第に弥勒信仰よりも阿弥陀信仰の方が隆盛を極めるようになったと思われます。

ところで、今回略述した弥勒菩薩は、六七日(死後四十二日目)の守り本尊であります。亡き人は地藏菩薩の有難いご利益をいただいたあと、更に弥勒菩薩の教導によつて、救いと悟りへの道を歩むことになるのであります。

除夜の鐘と 千巻心経法要のお知らせ

平成三十年十二月三十一日、午後十一時四十五分より、例年通り、参拝者の皆様に除夜の鐘を撞いていただきます。先着百八名の方々には、記念品の特別絵馬を授与します。百八番目までの整理券は、午後九時半に鐘撞き堂前にて配布します。

百九番目以降の方も、午前二時までは自由に鐘を撞いていただくことができます。

大晦日の夜、当山境内にて、清らかな鐘の音と共に、旧年中の煩惱を払い、清々しい気持ちで新しい年をお迎え下さい。

また、同時刻より、護摩堂におきまして、千巻心経法要を執り行います。



当山管長導師のもと、旧年の厄を払い、新たな気持ちで新年を迎えられるよう、太鼓の音に合わせ、般若心経を唱えます。

新しい年を迎えるに当たって、旧年にも増して皆で助け合いたい、仏様の智慧をいただき、明るい気持ちで過ごしていけるよう共にご祈念したいと思っております。

修正会のお知らせ

平成三十一年一月一日午後二時より、当山本堂におきまして、新春開運修正会（大般若転読法要）を執り行います。

導師が経題を唱えた後に、職衆各々が経本を展開する「転読」という特殊な読みかたで、総数六百巻に及ぶ長大なお経「大般若経」を読誦します。その功力をもって皆様の家内安全、厄除開運から、国家安穩、世界平和に至るまで、一年間の無事を祈念します。

祈願札を申し込まれた方には、当日本堂にお入りいただき、導師の加持した経本で身体を加持いたします。

新しい一年のご多幸を、皆様と共にご祈念したいと思います。



授与品

五千元 祈願札（木札）・破魔矢・

数珠

三千元 祈願札（紙札）・数珠

申込期限

一月一日正午まで

須磨寺事務所にて承ります。

頼政薬師寺 鬼追い式

来る平成三十一年一月八日午前十一時半より頼政薬師寺において「鬼追い式」が行われます。

明治以前、頼政薬師寺では、毎年一月八日に薬師上人という、この里の人が集まる儀式があり、座敷に松竹梅の三宝を飾り、その上座には薬師如来をまつり、全員がかみしもを着用して謡曲で興がそえられました。この儀式に参加することによって初めて、村人として認められたと言います。夜には鬼踊りと称して仮面をかぶった鬼たちが里人を狂ったように追い回す鬼追い式が行われていました。この鬼追い式は、非常に有名で、当時の須磨の一番大事な祭りであったと伝えられています。

近年は僧侶が牛王杖で床を叩きながら読経し、地にいる鬼を追い払う儀式が行われ、形を変えてこの伝統行事が受け継がれています。

人々の繁栄と家内安全を祈る、伝統ある頼政薬師寺の鬼追い式には是非お参り下さい。



頼政薬師寺

日時 平成三十一年一月八日（火曜日）

十一時半 開白

場所 頼政薬師寺

須磨寺駅から東に徒歩2分

参拝自由

阪神淡路大震災

二十五回忌

慰霊法要



来る平成三十一年一月十七日阪神淡路大震災慰霊法要を執り行います。当年は二十五回忌にあたります。早朝五時三十分より本堂におきまして、発生時間五時四十六分をまたいでの法要を行います。また、発生時刻には梵鐘を二十一回鳴らし追善の祈りを込めます。そして午前十時より本坊客殿において、慰霊法要を執り行います。近年、「激甚災害」に指定される災害が後を絶ちません。この法要に、あらゆる災害で亡くなられた方々の慰霊と、被災地復興の祈りを込めます。皆様にはどうかお参り頂き御焼香賜りますようお願い申し上げます。

日時

平成三十一年

一月十七日(木)

法要 午前五時三十分 本堂

法要 午前十時 本坊客殿

須磨寺の歴史 (二十二)

― 蓮華三昧院 (二) ―

今の高野山の寺院数は約百ヶ寺ですが一番多い時で、小さい草庵も含めれば約二千ものお寺があったと言われ、それぞれの役割ごとに学侶方(学問の研究や祈禱を主にを行う僧侶)のお寺、行人方(寺院の管理等実務を行う僧侶)のお寺、聖方(全国を回って勧進を行う僧侶)のお寺に分かれていました。しかし、明治維新の時に神仏分離令などの影響もあって寺院の区別はなくなり、寺院は統廃合されて今の状態に落ち着きました。その際、江戸時代より須磨寺の本寺だった蓮華三昧院と遍照光院が統合し、今日の須磨寺の高野山の所縁坊は遍照光院となりました。

蓮華三昧院は、明遍(一一四二―一二二四)を開基とし、佐々木高綱という鎌倉武士に支援されて建立されたお寺です。明遍は平治の乱で処刑された信西の息子で、明遍自身も越後に配流されましたが、その翌年には許されてから東大寺で三論宗を学び、後に高野山に入って真言密教を学び、念仏者としても名高い人物です。そして蓮華三昧院という寺名の由来はある時、境内が浄土に変わり、蓮華が庭に現れたという伝承から後世、蓮華三昧院と呼ばれるようになったと言われています。

蓮華三昧院は江戸時代には御庵室または主君寺と呼ばれ、院領として三十五石、功德院と蓮生院という二つの塔頭を持ち、諸国に末寺が二十一ヶ寺あるという名門寺院でしたが、明治の大火で焼失し、今は遍照光院に名前を残すのと、蓮華三昧院にちなんでつけられた蓮華谷という地名、そして蓮華三昧院があった場所に付けられた明遍通という名称のみ残されています。

須磨寺派管長

「己亥歳後七日御修法」出仕

バスツアーのご案内

後七日御修法とは、一月八日から一週間、京都の東寺にて執り行われ、真言宗各派総大本山の山主と定額僧（真言宗全体から選ばれた高僧）によって国家安泰と世界平和を祈る真言宗最大の法要です。

この度、当山管長が平成三十一年後七日御修法に出仕致します。そこで、結願にあたる一月十四日にお迎えに上がり、あわせて法要が行われた直後の「灌頂院」の道場を参拝するバスツアーを企画致しました。一年でこの日しか「灌頂院」に入ることはできません。灌頂院の中では、縦横約四メートルもある両界曼荼羅や、弘法大師伝来の仏具、五大明王や十二天の御軸などを拝観することが出来ます。貴重な機会ですので、ご知友お誘い合わせのうえ是非ご参加ください。



記

- 日時 平成三十一年一月十四日（月曜日）
- 行先 東寺「灌頂院」
- 旅行代金 一人七千三百円也（昼食・拝観料を含む）
- 出発時間 午前八時 須磨寺前交番 出発
- 募集人数 四十名（定員になり次第締め切らせていただきます）

※お申し込みは須磨寺寺務所にて承ります。

星祭り祈禱 須磨寺寒行

星祭りとは、新しい季節を迎える節目である節分（二月三日）に、一年の幸運と厄除け、それぞれの願いや目標に仏様のご加護をいただく祈願のことです。宿曜経によれば、当年星という吉凶を左右する星が一年毎に廻ってきます。これらの星によって定まる吉凶を受け、星回りの良くない年は、悪事災難から免れるように、星回りの善い年はより善い年となるように祈願するのが、星祭り（星供）の習わしです。星の吉凶については、青葉の笛だより裏表紙の数え年早見表をご覧ください。【○】【●】【◎】などのマークで吉凶を見ることができます。

須磨寺各寺院でそれぞれ星祭りのご祈禱を行っております。皆様のご多幸と所願成就を至心にお祈りいたします。ここに祈禱のお申込みをご案内いたします。

記

- | ■ 日時 | ■ 申込み |
|--------------------------|----------|
| 須磨寺本坊 二月三日 午前十時・午後二時 護摩堂 | 須磨寺各寺院まで |
| 須磨寺桜寿院 二月三日 午後一時から四時まで | |
| 須磨寺蓮生院 二月三日 午後三時 | |
| 貞照寺 二月三日 午前十一時 | |

※須磨寺では、星祭りの祈願と合わせて、寒行（冬の修業）を行っています。

一月二十八日から二月三日まで毎朝五時十五分から護摩堂で護摩修行を行います。どなたでも寒行にご参加いただけます。ご参加をお待ちしております。



須磨寺本坊 護摩堂



須磨寺 桜寿院

大峰山修行を終えて

英 舟

毎年、須磨寺青年会では希望者を募り、奈良県に聳える霊峰・大峰山の山上ヶ岳（一七一九メートル）に登り、山頂に建つ大峰山寺へお参りする入峯修行を実施しています。上りで約三時間、行場巡りと本堂参拝等に約四時間、下りで約二時間、合計約九時間に及ぶ山登りですが、霊山に入る事を許され、大峰山寺本堂の本尊「金剛蔵王権現」に祈りを捧げる修行でもあるので、青年会では山登りとは呼ばずに入峯修行と呼んでいます。

大峰山寺は奈良時代の呪術者、役ノ行者（修験道の開祖）によって開創されたといわれています。

寺伝では、その昔、役ノ行者が衆生救済の道を求められ、濁りきった世の中に最もふさわしい仏が出現されることを念じて、一千日の苦行を行った時、まず初めに地藏菩薩が五色の雲に乗って現れました。しかし、民衆を救う尊相ではないと役ノ行者は払いのけ、さらに呪文を唱えていると、次に慈悲をたたえた弁財天が出現しました。役ノ行者は自分の求めている姿ではないと、またまた払いのけて、さらに祈り続けました。すると、天地が揺れ動き、雷鳴の轟音とともに、憤怒の相で大地の間から湧き出たのが「金剛蔵王権現」でありました。役ノ行者は、これこそ民衆を救う守護仏だと、その姿を桜の木に刻み、「金剛蔵王権現」が地上に降り立った場所に祀りました。その場所に建立されたのが大峰山寺であり、その本尊は役ノ行者の感得した「金剛蔵王権現」そのものであります。

本尊「金剛蔵王権現」のお姿は大変すさまじく、曰く「右手に三鈷杵を握って頭上にかざし、左手は刀印を結んで腰を押さえる。その眼光は鋭く、怒りに燃える。左足はどつかと盤石を踏まえ、右足は宙空を高く蹴り上げる。口の両端からは牙が刃のように突き出している。右手の

三鈷は天魔を粉碎し、左手の刀印は一切の情欲と煩惱を断つ利剣である。左足は地下の悪魔を押さえ、宙を蹴る右足は天地間の悪魔を破る形相という。その全身で悪魔降伏を表している。」ここに言う悪魔とは、悪病や災厄を意味するだけではなく、人間の心の中に巣食う欲望や煩惱など、諸々の悪も指しています。明くる平成三十一年は、大峰山寺に祀られる本尊「金剛蔵王権現」が十五年振りに御開帳され、その霊験あらたかなるお姿に接することが出来る年となります。拙僧も今から楽しみにしておりますが、皆様も、心安らかで、恵み豊かな一年となりますよう心より祈り申し上げます。

合掌



大峰山寺



金剛蔵王権現が湧き出た聖地・湧出岩にて



大峰山寺本堂前にて

布教研修会報告

皆様初めまして。岡山県高梁市にあります須磨寺派、東松院法嗣の青木宥考（あおきゆうこう）と申します。今年の春から須磨寺で修行させていただいております。

この度、十月十五日から十六日にかけて、京都の東寺（教王護国寺）で行われた真言宗各派総大本山会布教連盟主催の青年教師布教研修会に参加させていただきました。二日間を通して、様々なプログラムが組まれていました。講師の先生の布教に関する講話や、布教研修に集まった各宗派の若い僧侶による布教法話の実践、東寺の境内参拝などが行われました。

何よりこの研修会の意義は僧侶による布教の実践経験と、他の僧侶の方の法話を聞いて研鑽を積むことにあると感じました。私も法話を発表することとなりました。私が発表した布教内容は、今年の六月二十八日から七月八日まで続いた西日本豪雨に関する事です。

私の自坊は、岡山県にあり西日本豪雨により被災しました。当時、私は須磨寺におり、自坊が大変なことになっていることに気付かずにはいきました。先輩僧侶の方から「地元の方は大丈夫なのか？」と言われ、父に連絡をすると、「大丈夫だから心配するな」と言われました。しかし、ニュースを見ると住宅の浸水、土砂崩れ、国道、鉄道などの通行止め等、今までに経験したことがない被害が出ていました。私の頭の中には、様々な不安が押し寄せてきました。「地元が無くなる



のではないかと？親類縁者の身に被害が及んでいないだろうか？」等不安が付きまませんでした。翌日、須磨寺管長小池弘三猊下並びに副住職である小池陽人僧正の計らいにより地元へ急遽帰らせていただくことになりました。

当時は、交通網も寸断されており、長時間かけて、何とか地元までたどり着くことができました。親類縁者の安否を確認し、ほっとしたところで、父親に「考えなしに帰ってくるな！」と怒られてしまいました。今考えれば、私の身を案じての父親の言葉だったのかもかもしれません。その翌日に東松院を確認しましたが、裏山からの土砂が大量にお寺に流れ込んでおり、大きな被害を受けていました。現在は、檀家の方や、行政や、須磨寺のご協力により復興にむけた歩みを進めています。

お大師様のお言葉に「四恩十善の教えを奉じ、人の人たる道を守るべし」というお言葉がございます。この中の四恩という言葉は、父母に対する恩、国王に対する恩、衆生に対する恩、三宝に対する恩、という意味になります。私はこの度の被災と復興の経験を通して、この四恩の教えを肌身で感じました。両親へのご恩、国や行政からの支援に対するご恩、自宅も大変な状況にありながら、お寺を支えてくださる檀家さんへのご恩、須磨寺へのご恩。今までいただいていたご縁のおかげによって、東松院は復興への一歩を踏み出すことができました。わが身が苦しい状況におかれた時こそ、ご縁の尊さを感じるばかりです。このような話を、緊張しながらも精一杯お話しさせていただきました。

最後に今回の研修会で、普段は見ることができない東寺の宝物の拝観や東寺境内の参拝ができたこと、そして高野山時代の先輩に久しぶりに会えたことなど、とてもいい経験となりました。

拙い文章で申し訳ありませんが、研修会の報告とさせていただきます。この度の研修会の経験を活かし精進して参ります。これからよろしくお願いたします。

青木 宥考

蓮生院一月から三月までの行事予定

貞照寺上棟式



去る十月二十九日（月）十時半より小池弘三猊下を御導師としてお迎えして、貞照寺上棟式を行いました。当日朝ににわか雨がりましたが儀式の時は晴天に恵まれ、中島工務店の大工による立派な工匠式が行われ、華やかなお祝いの式となりました。工事半分が終わりましたが、来年八月の工事完了まで外見は変わり続けます。また年末から来年三月末まで貞照寺の周辺工事も併せて行うので、貞照寺周辺は一新されます。是非ともお参りください。

今を大切に生きるために

人生のエンディングについて考える会

人生のエンディングである「死」について考えてみませんか？

「死」は後ろめたいイメージがあるので考えることを避けがちですが、より良く「生きる」ためには「死」と向き合うことも必要です。

「自分の死」を意識することで本当に生きたい生き方を共有しませんか？

日時… 一月五日（土）、

二月二日（土）、

三月十日（日）

十四時～十六時

場所… 蓮生院客間

お気持… 千円

持ち物… 筆記用具・お飲み物

講師… 山脇由記子

瞑想体験会

お寺で瞑想の体験会を致します。気軽にできる瞑想体験ですので、瞑想をしたことがない人でも気軽に参加ください。また瞑想会の後にお茶を出させていただきますので、心身共にゆつたりとしてください。（足を組みやすい服装でお越しください）

日時…

一月二十七日（日） 十六時～十七時半

二月十六日（土） 十四時～十七時半

三月三十一日（日） 十六時～十七時半

（受付は三十分前から）

場所… 蓮生院本堂

お気持… 千円

二つとも事前申し込み制です。

前日までに蓮生院の事務所にお申込みいただくか

お電話でお申し込みください。

蓮生院電話番号〇七八―七三二―二三二―

平成31年 年間行事 予定表

1月

- 1日(元旦)14時
開運修正会(大般若転読) 須磨寺本堂
- 3ヶ日 10・12・14時(元日のみ15時)
正月特別護摩祈禱 本坊護摩堂
- 8日 11時半 薬師寺鬼追い式 頼政薬師寺
- 17日 5時30分 大震災物故者慰霊法要 須磨寺本堂
10時 大震災物故者慰霊法要 本坊客殿
- 28日～2月3日 5時15分
寒行(星祭護摩祈禱) 本坊護摩堂

2月

- 3日 10・14時 節分星祭護摩祈禱 本坊護摩堂
15時 節分星祭祈禱 蓮生院
13時から16時 節分星祭祈禱 桜寿院
- 12日 15時 須磨寺先師忌土砂加持法要 本坊客殿

3月

- 2日 14時 敦盛祭 須磨浦公園 敦盛塚
- 11日 14時30分 東日本大震災
自然災害物故者慰霊法要
- 13日 14時 平敦盛・源平戦士追悼法要 須磨寺本堂
- 18日～24日 彼岸会(特別護摩祈禱)

4月

- 6日 13時 十三まいり
- 6日～8日 花まつり
- 17日 9・12・15時 青葉殿 納骨供養祭

6月

- 15日 10時 弘法大師降誕会 本坊大師堂

7月

- 30日 子供寺子屋修行

8月

- 9日 18時 四万六千日法要(みあかり観音)
- 12日～15日 盂蘭盆会
- 15日 10時 盆大施餓鬼法要(本坊) 本坊客殿
- 17日 9・12・15時 青葉殿盂蘭盆会法要 青葉殿
- 19日 14時 盆大施餓鬼法要(桜寿院) 桜寿院本堂
- 20日 14時 盆大施餓鬼法要(蓮生院) 蓮生院本堂

9月

- 20日～26日 彼岸会(特別護摩祈禱)

10月

- 6日 シベリア戦没者慰霊祭 シベリア慰霊碑

11月

- 23日(祝)11時 須磨の火祭り 柴燈護摩 本坊

12月

- 31日 23時45分
千巻心経護摩法要 本坊護摩堂
除夜の鐘 鐘楼堂
(21時30分 除夜の鐘 整理券配布)
- 毎月18日 10時 写経会 本坊客殿
- 毎月20・21日 お大師さん(縁日)
- 毎月3・8・13・18・20・21・23・28日 10時 護摩祈禱

平成31年 年忌数え年早見表

亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子
平成31年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年
1 ● 羅喉星	2 ● 土曜星	3 ● 水曜星	4 ● 金曜星	5 ○ 日曜星	6 ● 火曜星	7 ● 計都星	8 ○ 月曜星	9 ○ 木曜星	10 ● 羅喉星	11 ● 土曜星	12 ● 水曜星
平成19年	平成18年	平成17年	平成16年	平成15年	平成14年	平成13年	平成12年	平成11年	平成10年	平成9年	平成8年
13 ● 金曜星	14 ○ 日曜星	15 ● 火曜星	16 ● 計都星	17 ○ 月曜星	18 ○ 木曜星	19 ● 羅喉星	20 ● 土曜星	21 ○ 水曜星	22 ● 金曜星	23 ○ 日曜星	24 ● 火曜星
平成7年	平成6年	平成5年	平成4年	平成3年	平成2年	平成元年	昭和63年	昭和62年	昭和61年	昭和60年	昭和59年
25 ● 計都星	26 ○ 月曜星	27 ○ 木曜星	28 ● 羅喉星	29 ● 土曜星	30 ○ 水曜星	31 ● 金曜星	32 ○ 日曜星	33 ● 火曜星	34 ● 計都星	35 ○ 月曜星	36 ○ 木曜星
昭和58年	昭和57年	昭和56年	昭和55年	昭和54年	昭和53年	昭和52年	昭和51年	昭和50年	昭和49年	昭和48年	昭和47年
37 ● 羅喉星	38 ● 土曜星	39 ○ 水曜星	40 ● 金曜星	41 ○ 日曜星	42 ● 火曜星	43 ● 計都星	44 ○ 月曜星	45 ○ 木曜星	46 ● 羅喉星	47 ● 土曜星	48 ○ 水曜星
昭和46年	昭和45年	昭和44年	昭和43年	昭和42年	昭和41年	昭和40年	昭和39年	昭和38年	昭和37年	昭和36年	昭和35年
49 ○ 金曜星	50 ○ 日曜星	51 ● 火曜星	52 ● 計都星	53 ○ 月曜星	54 ○ 木曜星	55 ● 羅喉星	56 ● 土曜星	57 ○ 水曜星	58 ○ 金曜星	59 ○ 日曜星	60 ● 火曜星
昭和34年	昭和33年	昭和32年	昭和31年	昭和30年	昭和29年	昭和28年	昭和27年	昭和26年	昭和25年	昭和24年	昭和23年
61 ● 計都星	62 ○ 月曜星	63 ○ 木曜星	64 ● 羅喉星	65 ● 土曜星	66 ○ 水曜星	67 ● 金曜星	68 ○ 日曜星	69 ● 火曜星	70 ● 計都星	71 ○ 月曜星	72 ○ 木曜星
昭和22年	昭和21年	昭和20年	昭和19年	昭和18年	昭和17年	昭和16年	昭和15年	昭和14年	昭和13年	昭和12年	昭和11年
73 ● 羅喉星	74 ● 土曜星	75 ○ 水曜星	76 ● 金曜星	77 ○ 日曜星	78 ● 火曜星	79 ● 計都星	80 ○ 月曜星	81 ○ 木曜星	82 ● 羅喉星	83 ● 土曜星	84 ○ 水曜星
昭和10年	昭和9年	昭和8年	昭和7年	昭和6年	昭和5年	昭和4年	昭和3年	昭和2年	昭和元年	大正14年	大正13年
85 ○ 金曜星	86 ○ 日曜星	87 ● 火曜星	88 ● 計都星	89 ○ 月曜星	90 ○ 木曜星	91 ○ 羅喉星	92 ○ 土曜星	93 ○ 水曜星	94 ○ 金曜星	95 ○ 日曜星	96 ○ 火曜星
大正12年	大正11年	大正10年	大正9年	【大厄】 男性：41歳・42歳・43歳 女性：32歳・33歳・34歳							
97 ● 計都星	98 ○ 月曜星	99 ○ 木曜星	100 ● 羅喉星								

平成31年の当たり星の吉凶表

○	○	●	●	○	●	●	●	●	●
大 木曜星	大 月曜星	大 計都星	大 火曜星	大 日曜星	半 金曜星	末 水曜星	半 土曜星	大 羅喉星	九曜星
この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安進や油断、そして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	左記をよく心得て常に信仰と努力とを忘れてはなりません。 「九曜星は数え年早見表を参照」

平成三十一年 年忌一覽

一周忌	平成三十年亡	二十五回忌	平成七年亡
三回忌	平成二十九年亡	二十七回忌	平成五年亡
七回忌	平成二十五年亡	三十三回忌	昭和六十二年亡
十三回忌	平成十九年亡	三十七回忌	昭和五十八年亡
十七回忌	平成十五年亡	五十回忌	昭和四十五年亡
二十三回忌	平成九年亡	百回忌	大正九年亡